

氏名

奥田 湧木

[文法問題]

- ① 次の文章の段落の数と文の数をそれぞれ漢数字で書きなさい。

私たちは、毎日いろいろな種類の野菜を食べています。野菜は植物ですから根や葉、茎、花、実などの器官からできています。例えば、キャベツやレタスなら葉の部分を食べていますし、トマトやナスなら実の部分を食べています。

それでは、私たちが普段食べているダイコンの白い部分はどの器官なのでしょう。漢字で「大根」と書くくらいですから、根のように思うかもしれませんが、そんな単純ではありません。

- ② 次の文の1線部分の不自然なところをわかりやすく書きなさい。
(ただし□の字数にあうように書くこと)

ア ぼくが駅前を歩いていると、友達に名前を呼んだ。

ぼくが駅前を歩いていると、友達に名前を□□□□。

イ わたしが入学式で感じたことは、三年生が大人みたいです。

わたしが入学式で感じたことは、三年生が□□□□□□□□□□です。

- ③ 次の文の文節を例にならって書きなさい。

(例)

今日はとても暑い。

今日は・とても・暑い

ア バラの花がきれいに咲いた。

イ この本はとてもおもしろい。

- ④ 次のア・イの文の文節の数を漢数字で書きなさい。

ア 明るい星が東の空に出た。

イ 弟が公園で遊んでいる。

⑤ 次の文の単語を例にならって書きなさい。

(例)
少年が外を通る。
少年・が・外・を・通る

ア わたしは妹と公園に行く。

イ 大きなひまわりの花が咲く。

⑥ 次のア・イの文の単語の数・漢数字で書きなさい。

ア テーブルの上に花瓶を置く。

イ わたしは妹と図書館に行った。

⑦ 次のア・イの文の主語と述語をさがして書きなさい。

ア 妹が白い服を着る。

イ わたしも美術館に行きます。

⑧ 次の一線部分の主語・述語の関係は後の基本の関係のどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。

ア 新しい家が近くに建った。

イ あれがほとくの学校です。

ウ あじさいの花がとてもきれいだ。

A 何(だれ)が—どうする
B 何(だれ)が—どんなだ
C 何(だれ)が—何だ
D 何(だれ)が—ある(いる・ない)

⑨ 次の文から修飾語を探し、あるだけ書きなさい。

小鳥は かげから すばやく 逃げた。

⑩ 妹が を主語にした五文節の一文を作りなさい。

(条件)

・ 妹が も一文節と数えること

・ 解答欄のひとわぐごとに一文節を書くこと

・ 文末にあたる文節に句点をつけること

令和三年度 定期試験 国語 A

※国語Bの解答用紙と一緒に回収します

一 次の各問いに答えなさい。【知識・技能】

(1) 次の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。楷書で丁寧に書くこと。

- | | | |
|---------------|---------------|-------------------|
| ① 新人生をカバゲイする。 | ② 異常気象のエイキョウ。 | ③ 年賀状でキハキョウを知らせる。 |
| ④ サビしい風景。 | ⑤ 殺中キヤをまく。 | ⑥ 空気がシメている。 |
| ⑦ 上着をスグ。 | ⑧ シンセンな野菜。 | ⑨ テレジをシゴヤヤにする。 |
| ⑩ チコウの言に訳をする。 | | |

(2) 次の傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- | | | |
|----------------|--------------|-----------------|
| ① 鋭利な刃物。 | ② 会議は田淵に進んだ。 | ③ ヒタミハAの含有量が多い。 |
| ④ 合格者の名前を掲示する。 | ⑤ 雑誌に載った。 | ⑥ 文豪の作品を読む。 |
| ⑦ 依然として世界一である。 | ⑧ 敵は守りが堅い。 | ⑨ 戯曲を読む。 |
| ⑩ 発掘調査を行う。 | | |

(3) 次の月の陰暦での名称を漢字で書きなさい。

- | | | |
|------|------|------|
| ① 四月 | ② 五月 | ③ 六月 |
|------|------|------|

(4) 漢和字典には三種類の索引(ぞくいん)がつけられています。その三つの索引の名前をすべて漢字で答えなさい。

二 次のことわざに関する各問いに答えなさい。【知識・技能】

(1) 次のAの意味を持つことわざを答えなさい。(ひらがなでもよい)

A もめことの後は、かえって前よりもまとまって良い状態になること。

(2) 次のBのことわざの意味を次から選び、記号で答えなさい。

B 雨垂れ石をうつが

A 悪事や欠点などを、すっかり、かくしたつもりであっても、その一部が現れていること。

イ 二つを同時に手に入れようとするより、両方とも手に入らない。

ウ とても用心深いことのことわざ。

E どんなに小さな力でも、しんぼう強く努力を続ければ、成功するということわざ。

(3) 次のCのことわざの意味と逆の意味を持つ四字熟語を答えなさい。

C 蚱蜢とらふ

三

『朝のリレー』 次の詩を読んで、あとの問に答えなさい。【思考・判断・表現】

朝のリレー

- 1 カムチャツカの若者が
2 きりんの夢を見ているとき
3 メキシコの娘は
4 朝あやの中でバスを待っている
5 ニューヨークの少女が
6 ほほえみながら寝がえりをうつとき
7 ローマの少年は
8 柱頭を染める朝陽にうつつする
9 この地球では
10 いつかどこかで朝がはじまっている
- 11 ほくらは朝をリレーするのだ
12 経度から経度へと
13 そつしていわば父蒼で地球を守る
14 眠る前のひととき耳をすますし
15 どこか遠くで目覚時計のベルが鳴ってる
16 それはあなたの送った朝を
17 誰かがしっかりと受けとめた証拠なのだ

- (1) この詩の作者の名前を漢字で書きなさい。
- (2) この詩の形式を次から一つ選び記号で答えなさい。
ア 口語自由詩 イ 口語定型詩
ウ 文語自由詩 エ 文語定型詩
- (3) この詩の1～8行目までについて、「夜」に関する言葉と「朝」に関する言葉をそれぞれ一つ、一語ずつで書き抜きなさい。
- (4) 11行目「ほくらは朝をリレーするのだ」とは、どんな様子を表現していますか。次の条件で書きなさい。
(句読点も一字に数える)
・ 二十字以上 二十五字以内の一文。
・ 「地球上」「朝」という言葉を使う。
・ 文末を「～様子。」とする。
- (5) 15行目の「目覚時計のベルが鳴ってる」と似た意味の表現を、詩の中から九字で書き抜きなさい。
- (6) この詩を朗読するとき、とくに強調して読みたいところはどこですか。1～10、11～17の中からそれぞれ二行ずつ選び、行の数字で答えなさい。
- (7) 11～12行目に用いられている表現技法を次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 比喩法 イ 擬人法 ウ 対句法
エ 反復法 オ 倒置法

四

『野原はつたご』 次の詩を読んで、あとの問に答えなさい。【思考・判断・表現】

I あしたこそ たんぽぽ はるか

①ひかりを おでこに

くつつけて

はなひらく ひそ

ゆめをみ

たんぽぽはだけが

まにまに

たんぽぽはつたご

あした

たんぽぽの 「たんぽぽ」に

であつたために

- (1) 題名に「あしたこそ」とありますが、「たんぽぽ はるか」さんは、あしたこそつたごだと思つていませんか。次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 知らないところで暮らしてみたいと思つている。
イ 次の場所に無事にだより着きたいと思つている。
ウ 誰よりも遠くくどでいきたいと思つている。
エ 多くの新しい誰かに出会いたいと思つている。
- (2) ①「ひかりを おでこにくつつけて」の意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 明かりをとめて
イ 日の光を浴びて
ウ 茎を高く伸ばして
エ つぼみをつけて

Ⅱ おれはかまきり かまきりりゅうじ

②おつ なつたせ

おれは げんきだぜ

あまの ちやよるな

おれの じいじが かまめ

ひまひまするばい

ひまひまするばい

おつ あつたせ

おれは かんぱるぜ

あまの ひをあひし

かまきり りゅうじす すがた

わくわくするばい

③おれはかまきり

- (3) Ⅱの詩は、点線の部分で二つに分けることができます。詩を分けるときの単位を漢字一字で答えなさい。

- (4) Ⅱの詩を説明した次の文の[A]・[B]にはまる言葉をあてから選んで書きなさい。

前半と後半で形や意味が [A] するように言葉を並べる

ことで、意味や音の [B] の面でリズムが生まれる。

【 高低 ・ 対応 ・ 調子 ・ 対立 ・ 同化 ・ 統一 】

- (5) ②「おつ なつたせ」とありますが、夏の太陽の様子を描いた一行を書き抜きなさい。

- (6) ③「きまこてるぜ」とは、何かをまわっているのですか。詩の中の一行を書き抜きなさい。

- (7) Ⅱの詩は、どのように読むよいですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大きな声でとなり、ふきりんそうに読む。

イ 大きな声で元気いっばい、楽しそうに読む。

ウ 静かな声で気取って、じまんするように

エ 小さな声でひそひそ話すように、早く読む。

ある日、国語の授業で①小説を読んだ。

短いお話で、全然明るくなくて、それどころか暗くて、悲しい話だったけど、僕はすごく好きだと思った。でも、どうして好きなのか全然説明できなかった。だから、シンタに話そうと思った。僕が好きなんだから、シンタも絶対に好きだろう。そしてシンタなら、その理由を教えてくれるにちがいない。

休み時間、僕はいつものようにシンタの席へ行った。②待ち切れなかった。わくわくしながら小説の話を切りだすと、シンタは顔をしかめた。

「あれ、嫌いだ。」

③頭をがつんと殴られたような気がした。

「暗くてぞ。何が書きたいんだろ。」

僕は思わず、シンタといっしょになすいた。

「そうだよな。僕も嫌い。」

その日は、ずっと苦しかった。

僕が好きなのを、シンタが嫌いと言ったことが悲しかった。「僕は好きだ。」と言えなかったことが悔しかった。でも、シンタと違う自分は嫌だった。僕たちは好きなものや嫌いなものが同じだから「シンシエン」コンビなんだ。違うところがあれば、僕はきつといっしょにいられなくなる。それは嫌だった。絶対に嫌だった。

それから僕は、シンタと話すときに迷うようになった。

休み時間も放課後も、相変わらずシンタといっしょにいたけど、前みたいに話せなくなった。

僕はあたりまえのことばかりを話した。「雨が降っているね。」とか、「あしたは一時間目が体育だね。」とか。

シンタもなんだかおかしかった。僕と同じように口数が少なくなって、僕みたいにあたりまえのことしか話さなかった。とっとう僕らは黙ってしまった。黙ってしまうと後はただ気まずくて、だから僕たちはだんだん離れていった。

クラスみんなは「シンシエン」コンビがいっしょにいないことを心配してくれた。でも、僕たちは自分たちに何があったのか、みんなに説明することができなかった。

ある日、クラスメイトが僕に、

「シンタとけんかしたの。」

そうきいてきた。僕はそのときこう思った。ああ、けんかできたら楽だろうな。何もしていないのに、こんなふうに気まずくなるなんて。僕は自分が情けなかった。そうだ、どうせなら、ちぎんとけんかしよう。勇気があることだったけど、こうやって気まずいよりはましだ。僕はシンタに話しかけた。

「シンタ。」

シンタは僕を見た。ちよつと怖がっているみたいに見えた。

「僕、あの小説が好きなんだ。」

「え？」

「あの、国語の小説。」

覚えていないかもしれない。急にこんなことを言うのは変だ。でも、そこから話をするしかなかった。僕は必死だった。だから、

「覚えているよ。」

シンタがそう言ってくれたときは驚いた。それから、こう続けたときも。

「僕が嫌いって言ったとき、シエンタが傷ついたのもわかった。」

気づいていたんだ。謝ろうとした僕より先に、シンタが「めん。」と言った。

「僕たち、あれからちよつとおかしいよな。ちよつとつていうより、だいろ。」

「うん。なんか。」

「つまらないことばかり話してぞ。」

「本当にそうだね。」

シンタと僕が久しぶりに話をしているのを、クラスメイトたちが見ているのがわかった。

でも、僕は気にしなかった。

「僕、シンタと違うところを発見するのが怖かったんだ。」

④シンタも、気にしていなかった。

「僕も！」

思ったより、大きな声が出たのだった。⑤シンタは照れくさそうに笑った。

「またシエンタを傷つけるのも怖かったしぞ。」

シンのその笑顔が、僕は好きだった。大好きだった。

⑥「傷つかないよ。」

「え？」

「僕の好きなものをシンが嫌いでも、僕は傷つかないよ。あ、うん、傷つくかもしれないけど、でも、じゃあ、だからこそ話そうよ。どうして好きなのか、どうして嫌いなのか。」

⑦シンはまっすぐ僕を見た。僕もシンをまっすぐに見た。僕たちはそっくりだった。

「うん。話そう。」

そっくりだけど、全然違う人間なのだった。

「話そう。たくさん。」

⑧僕たちはそれから、前にもまっすぐおしゃべりになった。

(1) ①「小説」とありますが、どのような小説ですか。三十字以内で探し、初めと終わりの三字を書き抜きなさい。

(2) ②「待ち切れなかった。」とありますが、何を待ち切れなかったのですか。十五字以内で書きなさい。

(3) ③「頭をがっつんと殴られたような気がした。」とありますが、「僕」はそれまでシンの考えをどのように想像していましたか。一文で探し、初めの五字を書き抜きなさい。

(4) ④「シンも、気にしていなかった。」とありますが、その理由を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「僕」の話に感動していたから。

イ 仲直りをしようと思死だったから。

ウ 「僕」と真剣に話をしていたから。

エ 気にすると耻ずかしくなるから。

(5) ⑤「シンは照れくさそうに笑った。」とありますが、このときのシンの気持ちを一つ選びなさい。

ア 自分たちがクラス中の注目を集めてしまって、気がずい。

イ シンと気持ちが通じ合ったことを感じられて、うれしい。

ウ シンがそれほど傷ついていないとわかり、ほっとした。

エ 気持ちの高ぶりから大きな声が出てしまい、気はずかしい。

オ 自分とシンが似たようなことで悩んでいたのがおかしい。

(6) ⑥「傷つかないよ。」とありますが、「僕」がこう言ったのはなぜですか。空欄に入る言葉を六字で書き抜きなさい。

自分とシンは だということに改めて気付いたから。

(7) ⑦「シンはまっすぐ僕を見た。僕もシンをまっすぐに見た。」とありますが、二人の様子から感じられることを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 意思の弱さ

イ 対立の深さ

ウ 決意の固さ

エ 責任の重さ

(8) ⑧「僕たちはそれから、前にもまっすぐおしゃべりになった。」とありますが、「僕」と「シン」は以前と変化してどんな関係になったのですか。次の条件で書きなさい。

・二十五字以上 三十字以内

・「考えの違い」を使う

・文末を「～関係。」とする